20201227レムナント教会1部

 **信者の結論(Ⅱサムエル記23:1-7)**

　2020年最後の聖日礼拝をともにささげることを主に感謝申し上げます。2020年を振り返ってみると、コロナ一色の年だったのではないかなと思われます。流行語大賞もコロナ関連の「三蜜」になりました。また、今年の漢字も「蜜」という漢字が選ばれたそうです。そのため2020年の主役はコロナそのものではないかと皆思っているでしょうけれども、クリスチャンの私たちは冷静に見ていないといけません。このようなわざわいの歴史というものは今までずっと繰り返されてきました。今年だけの話ではありません。しかし、そのわざわいの繰り返しの歴史の中で変わることなく、また止められることなく、神の契約、世界福音化の契約は突き進んで成し遂げられてきたというのが歴史の証拠です。ですから、2020年も私たちの目には見えませんけれども、神の御座に座っていらっしゃる万軍の主となられたイエス・キリストが、信者、教会を通して止められることなく、変わることなく世界福音化の契約を全うしていらっしゃったことに間違いありません。それゆえ2020年の主役はコロナではなくて万軍の主、世界福音化を今も休まずに全うしていらっしゃるキリストが主役なのです。そして、そのキリストによって用いられ、その契約のために用いられるようになりました教会、信者ひとりひとりが2020年の主役だったということを忘れてはいけません。今までそのような意識がなかった方がいらっしゃれば、ぜひ最後の日曜日に「そうだったのだね」と自分の中で整理していただきたいと思います。そういうことを悔い改めるというわけです。2020年も変わることなく、その歴史のテーマは世界福音化です。当然2021年になにがあるか私たちは予想できません。どんな年になるのか分かりません。けれども変わることなく世界福音化をテーマにして、教会も私たちも主役になって2021年も世界福音化のために備えられ、また流れるということを2020年の最後のときにひとりひとりが心にしっかりと刻んでいただきたいと願います。そういう意味で2020年の最後、また2021年を迎えるに当たって、信者の私たちはこれだあれだによって振り回されることなく、変わることのないこの契約を信者の結論として、それも釘をさして新しい年を迎えるようにしなければいけないと思います。

　今日の聖書の箇所を見ますと、波乱万丈の人生を過ごしてきたダビデが、その人生の最後に1節を見ると「これはダビデの最後のことばである」と書いてあります。つまり、結論として人生の最後のときに神様に告白とともに賛美を捧げている文章です。改めてこの内容を通して、今を生きる私たちは信者の結論とは何かを知るべきです。それは皆さんが信じるか信じないかと関係なく、もうすでに決まっていることです。勝利なのか失敗なのかは、神様によって既に定められているこの結論に釘をさすのかどうかが問題です。その内容を今日確認して最後の礼拝を飾りたいなと思います。

　その第一はダビデが告白しているように、いろいろなことがあったのにもかかわらず、信者である自分はキリストで幸せな者なのだというのが結論なのです。これが結論でなければいけません。信者である私は他の何かではなくて、キリストによって幸せな者です。ダビデを通して見られるように、クリスチャンの人生にも様々なことがあり、いろいろな問題が起きます。問題がないということは嘘です。しかし、信者は幸せな者だというのは、裏返しますとどんな問題であろうが何一つ信者にとって問題になるものは存在しませんということです。これが結論です。問題がないことを望むのではなくて、どんな問題があろうが信者にとってすでにとっくに永遠に幸せな者なのです。信者にとってもはやそれは問題になりません。そうでなければ幸せという表現は嘘になります。そして、皆さんが健康だから、金があるから、家族団らんなので、他のいろいろな条件によって幸せを天秤にかけたり、それによって左右されるようになれば、いつまで経ってもこの結論にはたどり着くことはできません。そういったものではなくて、キリストで幸せなのです。死の影の谷を歩いていても、刑務所に収監されていても、癌にかかったとしても、それは私の幸せと不幸を左右するものではない、これが信者の結論です。キリストで幸せなのです。何も問題になりません。問題に騙されないように、惑わされないようにしましょう。

　なぜこのように言えるのでしょうか。理由は一つしかありません。私たちが救い主として受け入れました。そのイエスがキリストだからです。イエスがキリストであるがゆえに、そのイエス様が十字架の上ですべてを完了したと宣言なさいました。そのイエス・キリスト、勝利のイエス様がすべての問題を解決されました。その主が私の内側に入って永遠にともにおられるものになりましたので、私は幸せなのです。私は何の問題もありません。これがなかなか皆さんの刻印、体質、根になっていないと思います。頭で分かっていると思わずにこの契約を握って、ずっと繰り返し自分に言い聞かせることです。聖書にあるとおりに口ずさむ、黙想を繰り返し、皆さんの脳細胞に先に入っているものが飛んで行って、このみことばが皆さんの脳細胞に刻まれるようにしなければなりません。この結論は皆さんのどうのこうのによって変わるものではありません。だから、結論なのです。霊的な問題を患っていた人、霊的ないろいろな問題を抱えている家庭環境で育った人々は、救われたのにもかかわらず霊的な問題が現れたり、ときには何かが聞こえてきたり、何かが見えてきたりという場合もあります。そういうときでもこの結論を握って、にもかかわらず私は幸せな者だ、これも問題ではないんだと告白する、これが戦いです。でも、結論になっていないので、その人の力にも武器にもなりません。2020年の最後、この結論を握ってください。様々な問題、これからもあります。しかし、その問題と関係なく、幸せな者なのです。先ほども申し上げましたように、何かの問題や変化によって変わる祝福ではありません。天にある霊的な祝福なので変わることはありません。問題がなんなのかと関係なく、問題があるか、それが消えてなくなるか、変わるかなどと一切関係なく、キリスト・イエスによって幸せなのです。騙されないようにしましょう。これがクリスチャンです。悪魔は昔の古いいろいろな枠をもってこの福音にたどり着くことができないように邪魔するわけです。ものすごくシンプルなことなのに。もっと縮めて申し上げると、イエスはキリストなのです。しかし、この告白を邪魔するわけです。また何かが問題になり、また何かが心配になり、また何かが引っかかるわけです。そうしなくても結構です。死にそうでしょうか。死ねば結構です。イエスはキリスト。すべては終わりました。ですから、クリスチャンはどんな問題があろうがその問題は問題ではないし、神様の聖なる理由があるプロセス、過程なのです。それ以外には何でもありません。その目で見ないといけません。言葉を変えますと、幸せなクリスチャンにとって問題そのもの、問題自体がもう答えになるわけです。すべてが答えであり、人生のすべてが機会なのです。なぜならとっくに永遠に変わることのない幸せな者だからです。問題があります。すべての人に問題です。しかし、私は幸いな者です。ですから、これは問題になりません。だとしたらこれは何なのか。神の聖なる理由のあるプロセスに過ぎないものです。このことを普段から祈りの中で、あるいは歩きながら、何かをしながらずっと自分自身に繰り返すこと、刻印、根、体質になるようにすることによって、これが力を発揮するようになるわけです。

　だから、クリスチャンの人生はこのようにまとめられると思います。勝利がもうすでに前提にされている人生です。何があっても勝利が大前提にされているものなのです。なんと素晴らしいのでしょうか。何をしたからそうなってしまったのでしょうか。一つしかありません。キリストであるイエス様を信じたからです。他に大げさな何かを考える必要はありません。イエスを信じることはそれほどすごいことなのです。なぜでしょうか。イエスはキリストだからです。パウロは刑務所の中でエペソ1：3、天にある霊的すべての祝福をいただいている者だと告白します。私は幸せなのです。刑務所が私の幸せを奪ったり左右することはできない、そのような幸せの主人公なのです。旦那さんによって奥さんによって子供によって経済によって健康によって社会情勢によってクリスチャンの幸せが左右されるものではありません。これが結論です。釘をさしましょう。なぜこの結論に躊躇していらっしゃるのでしょうか。どんな奴がそのように邪魔しているのでしょうか。躊躇しないようにしましょう。迷わないようにしましょう。釘をさしていきましょう。

　それで当然な2番目の結論です。この幸せの根源であるキリストのないこの世は不幸なのです。形がどうであれ、外見がどうであれ、キリストのないこの世は不幸です。これが結論にならないとクリスチャンの祈りはちんぷんかんぷんになります。人生の方向も定まりません。キリストのないこの世はたとえアットホームであっても不幸なのです。健康で80歳、90歳でぴんぴんしていても不幸なのです。アメリカに住んでいる人も、また食べ物に困っているアフリカに住んでいる人も、戦争の紛争の中に巻き込まれている国の人々でも、平和な国で過ごしている国民でも一切関係なく、キリストのないこの世は不幸なのです。なかなか認められないのでしょうか。これがキリスト教です。これがクリスチャンです。何を見て幸せを計っていらっしゃるのでしょうか。何を見て人の幸せ、不幸を天秤にかけていらっしゃるのでしょうか。そのすべては偽りです。キリストのない幸せなどは存在しません。人々は一生懸命、幸せになるために頑張って努力を重ねています。それは立派なことで称賛に価すると思います。しかし、残念ながらその努力と頑張りなどでは幸せは手に入りません。勘違いしないように。また、経済的に生活が豊かに、裕福になる場合があります。それを目指して頑張っています。しかし、どんなに経済的に裕福になってもそこに幸せはありません。これが結論です。なぜそういった項目をおいて幸せになるだろうとクリスチャンでも勘違いしているのでしょうか。自分はキリストで幸せだ、この結論に釘をさしていないから混乱してしまうでしょう。悪魔の好都合なのです。技術が発展して、時には自分の野望通りに、願い通りに成功を手に入れる場合もあります。しかし、残念ながら発展にも成功にも本物の幸せはありません。あると思いますか。歴史を勉強してみてください。自分の人生を振り返って素直になってみてください。そこにどんな幸せがあるでしょうか。必要なものであるけれど、なぜ幸せとは無縁なのでしょうか。人間は誰も知らない、そういったものではどうにもならない根本的な不幸を抱えているからです。人間は神のかたちに造られた以上、神を離れた人々は何をどうしても幸せは得られません。なぜかというと、努力しても、豊かになっても、成功を収めたとしても、残念ながらあなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であると言われることに変わりはないし、生まれながら神の御怒りを受けるしかない滅びの運命を抱えて生まれて生きるということにはちっとも変わることはないからです。そういった根本的な不幸が努力や豊かさや成功などによって変わるとすれば、この地球はすでにユートピアになったでしょう。勘違いしないようにしましょう。世の中の人々は脳細胞が麻痺されていて、そういう証拠があるのにもかかわらずそれを認めようとしません。それでも人間が頑張れば世界は変わるというような幻を握って頑張っているところがこの世です。そこに神様はクリスチャンの私たちを送られていらっしゃいます。キリストのないこの世は何がどう変わろうが、変わらない不幸の中を歩いています。これが結論です。会社に入って自分の上司、あるいは給与をもらう社長がいたとしても、その関係をどうすべきなのかを別として、その人は不幸なのです。それを大前提にいかないといけません。これが変わらない結論です。

　そでれ信者の最後の結論です。信者がこの世に存在する理由は、世に唯一の答えであり希望である福音を伝えるためです。信者の存在の理由は、福音宣教だということが結論です。どんな仕事をするのか、どのような専門分野、どんなタラントを生かして、何をどうするかと一切関係ありません。福音宣教一つしかありません。それが歴史が今も存在して流れている理由です。マタイ24：14、終わりに様々なことが起きます。しかし、まだ終わりではありません。この福音が全世界に宣べ伝えられて、それから世の終わりが来ると書いてあります。歴史の意味が福音宣教のためということを忘れてはいけません。クリスチャンがこの結論をもってこれ以上混乱してはいけないことがあります。多くのクリスチャンがこの部分で混乱してしまいますが、社会的必要と本質的な必要をわきまえないといけません。社会的必要を否定するつもりはありません。福祉も必要だし、施しも必要だし、音楽も必要だし、教育も必要だし、医療も必要です。経済活動や様々なことが必要です。それを無視したり否定するつもりはこれっぽっちもありません。認めます。しかし、それが人に幸せをもたらすかということとはまったく違う話なのです。本質的な必要はたましいが死んでいる人々がいのちをいただいて神とともにおられ生かされることです。それは社会的必要などによっては満たすことはできません。本質的な必要はキリスト・イエス、福音宣教のほかには満たすことはできません。クリスチャンがこの部分をこんがらがってしまうのです。あるいはしっかり聞いたのにもかかわらず、自分の野望を捨てることが嫌なので、社会的必要をまるでクリスチャンの本質的な必要であるかのようにごまかして、それをメインにして自分のやりたいことの方に行こうとしているのではないでしょうか。社会的必要と本質的な必要ということをよくわきまえないといけません。どの立場であれ、またどこにいる信者であれ、何をする信者であれ関係なく、神様が信者を召された理由は一つしかありません。エペソ2：10、良い行いのために救われたのです。その良い行いがイエス・キリストをおあかしすることです。Ⅰペテロ2：9、この救いの素晴らしい光のおあかしのためにあなたがたは召されている者なのです。Ⅱコリント5：20、あなたがたはキリストの使節、大使です。キリストの代わりに。マタイ5：14、あなたがたは、世の光と言われる者として召されました。教育によって光を照らすことがあり得ると思いますか。政治がこの世に光を与えられるとクリスチャンでも勘違いしているのですが、光はキリストの他にありません。この部分をよく理解してください。

　そして、動かぬ結論として釘をさすことが大切です。この契約を握って2021年はそれぞれが自分のレベルに合わせて、サミットの時間を必ず持つようにしましょう。サミットの時間というのは、いろいろな課題、条件があるのにもかかわらず、そのすべてを下ろして神様に集中することです。イエス・キリストに集中して、その神の契約の中に自分を持って行くこと、これをサミットの時間と言います。どこまでそこに集中すればいいのか、どこまで繰り返しやらないといけないのかと言いますと、自分の中にある不安、不平、誰かと比較すること、人間的な自慢、落胆、欲、憎しみ、怒りなどがいらないものだと悟れるまでです。そういったものが自然な現象ではなくて、私にとっては幸せなものになっている、またこの世を生かすための伝道者として召されている自分にいらないものなのだね、悪魔のわなのようなものなのだねと心から自分で気づくまでサミットの時間に集中しましょう。そういったものが飛んで行き、自分の存在の理由、残りの生涯の理由が福音宣教一つに絞られるときまで。やるべきことはいっぱいあると思います。でも、自分の存在の理由は勉強もご飯を食べることも結婚することも就職も専門を選ぶことも将来のすべてが福音宣教という理由のためにあるものなのです。そして、福音宣教ということを理由にして正しく導かれるように、選ぶようにしないといけないものです。そういう意味でデリケートにならないといけないでしょうけれども、そういう意味でなにも気にしなくていいわけです。本当に福音宣教が自分の生きる唯一の理由なのでしょうか。それ以外に生きる理由はありません。なぜならもう幸せな者だからです。天国に行った方がずっと素晴らしいです。地上にいる理由は、何かを研究して論文を発表するために、家族を養うために、自分の世界を変える何かのプランと野望を持ってそれを実行するためにでしょうか。とんでもありません。それらしく思われるかもしれませんけれども、信者の生きる理由は福音宣教の他にはありません。そのように一つに絞られるようになるまで集中することをサミットと言います。今日申し上げましたこのような契約のみことばを握って、神様に、イエス・キリストに集中していけば、本当にそこを認めて行くようになれば、それが自分の脳細胞に刻印されるようになれば、皆さんは間違いなく誰であれ、子どもであれ、大人であれ関係なく、「自分の生きる理由、生かされている理由は福音宣教のためなのだね。自分の存在の理由は福音宣教のためなのだね」という結論に絞られるようになるはずです。そのときから使徒の働きのマルコのタラッパンの祈りが始まります。そのときまではクリスチャンでありながら、クリスチャンらしいクリスチャンにはなれません。どんなに頑張って礼拝に集うとしても。クリスチャンは形式ではありません。形式を無視してはいけませんが、そうなってこそ結論として釘をさすということです。そうなったときにサミットの時間に実際に自分の人生のあらゆるものの方向を福音宣教に合わせるように、その告白に走るようになります。それをサミットの時間、それを祈りに専念するというわけです。

　ですから、残りの課題は一つしかありません。そのために聖霊の力、聖霊の満たしを約束されました。聖霊の満たしはそのために約束されているものなのです。もちろん聖霊の力によって病気が治ったり、奇跡が起きたりします。でも、聖霊の力と満たしはこの福音宣教のために約束されているものなので、迷うことなく堂々と無条件信仰を持ってそれを求めるようになるでしょう。それが祈りに専念するということです。他に何も気にするものがないので、祈りに専念するということになります。ぜひ2020年最後の礼拝を通して悔い改めてください。2020年の主役も本当はキリストであり自分だったということに気づかずに振り回されていたのだねと思うこと、それが悔い改めることです。2021年はこの契約の結論に釘をさしてください。自分が弱いか、気持ちがどうなのか、これからどのように変わるのか、一切関係ありません。だからクリスチャンは強いのです。地震が起きても、国と国が敵対することがあったり、感染病によってパンデミックが起きることがあっても、世界福音化の契約はちっとも邪魔されずにずっと着々と進むようになっています。このことを私たちは知っているわけですから、そこに結論を出して、そこにしっかり乗っていく者なのです。そのような主人公としての2021年を迎えることを主の御名によってお祈りいたします。

（祈り）

恵み深い天の父なる神様。2020年、1年間もみことばとともに神の契約の中で教会を、信徒ひとりひとりを守ってくださりありがとうございます。個人的に皆がそれぞれいろいろなことがあったでしょうけれども、そこで変わることのない信者の結論を改めるときにしてください。そして、その結論に心から信仰をもって釘をさして、何がどう変わろうが一切その結論に触れることができない固いものにしていくことができるようにこの最後のときを祝福してくださり、2021年は最初からこの歴史の主人公、主役としてスタートすることができるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。